

2018 年度

南山大学自己点検・評価報告書

点検・評価結果

(研究所・研究センター・委員会・事務組織)

南山大学自己点検・評価委員会

2018 年度

南山大学自己点検・評価報告書

点検・評価結果

(研究所・研究センター・委員会・事務組織)

－目 次－

<研究所>

・南山宗教文化研究所.....	1
・人類学研究所.....	3
・社会倫理研究所.....	5

<研究センター>

・アメリカ研究センター.....	7
・ラテンアメリカ研究センター.....	9
・ヨーロッパ研究センター.....	11
・アジア・太平洋研究センター.....	13
・言語学研究センター.....	15

・理工学研究センター.....	17
・法曹実務教育研究センター.....	19
・国際センター.....	21
・情報センター.....	23
・人類学博物館.....	25

<委員会>

・大学将来構想委員会.....	27
・個人情報保護委員会.....	28
・コンプライアンス室.....	29
・インスティテューショナル・リサーチ（IR）推進委員会.....	30
・ハラスメント問題対策委員会.....	31
・キリスト教センター運営委員会.....	32
・SD委員会.....	33
・予算委員会.....	34
・入学試験委員会.....	35
・試験運営委員会.....	36
・入学試験広報委員会.....	37
・大学院入学試験委員会.....	38

・大学院入学試験運営委員会.....	39
・学生委員会.....	40
・保健管理委員会.....	41
・保健センター.....	42
・全学カリキュラム委員会.....	43
・共通教育委員会.....	44
・基盤・学際科目委員会.....	45
・博物館学芸員養成課程委員会.....	46
・教職センター委員会.....	47
・司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会.....	48
・外国語教育センター委員会.....	49
・就職委員会.....	50
・キャリアサポート委員会.....	51
・国際センター委員会.....	52
・情報センター運営委員会.....	53
・図書館委員会.....	54
・自己点検・評価委員会.....	55
・内部質保証推進委員会.....	56
・パツへ研究奨励金配分委員会.....	57

・ F D委員会.....	58
・ 研究審査委員会.....	59
・ 大学院委員会.....	60

<事務組織>

・ 学務部.....	61
・ 学生課.....	62
・ 教務課.....	63
・ キャリア支援課.....	64
・ 学事課.....	65
・ 南山エクステンション・カレッジ事務室.....	66
・ 図書館事務課.....	67
・ 情報センター事務室.....	68

自己点検・評価委員会による各組織の「評価できる点」、「改善すべき点」および各組織に対する「意見・指示」がない以下の組織については、点検・評価結果を掲載していません。

<研究所>

研究所総合委員会

<研究センター>

地域研究センター委員会、人間関係研究センター、経営研究センター、外国語教育センター、教職センター、体育教育センター

<委員会>

大学評議会、キャンパス整備計画委員会、兼業審査委員会、教務委員会、人間の尊厳科目委員会、宗教教育委員会、
大学院教務委員会、南山エクステンション・カレッジ委員会、南山学会

<事務組織>

事務部長会議、学長室、総務部、総務課、人事課、経理課、施設課、入試課、国際センター事務室、
教育・研究事務部、教育・研究支援事務室

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	南山宗教文化研究所		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。	海外から、訪問者、滞在・客員研究所員としての依頼などが恒常的にあることから、等研究所の活動が海外で認められていると言える。			
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていますか。	独自の「南山宗教文化研究所研究員奨励基金」を持ち、その財源から複数名の研究員を採用できている点は評価できる。			
			④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
			⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	社会還元のために研究成果を専門研究者間で共有することに加えて一般人向けに公開する機会の設定を検討してください。	人類学研究所の人類学フェスティバルおよび社会学研究所の一般公開での学術イベントを参考とされたい。	南山宗教文化研究所のホームページや南山大学のホームページを通して、同研究所で行われる研究会、懇話会、読書会などのお知らせを掲載している。その掲載の内容をより詳細にすることで、できるだけ多くの人々に理解してもらい、参加してもらいたい。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			人類学研究所	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。	2018年度にAsian Ethnology77巻、年報人類学研究9号、人類学研究所論集6-8号、ブックレットVol.4,5を刊行して人類学研究の発展に寄与し、アジア研究の成果を世界に広める役割も果たしている点が評価できる。		
		(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。			
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
		(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	映画上映会、人文学部人類学科と共催の人類学フェスティバルには多くの一般参加者があり一般市民に開かれた研究所として社会貢献を果たしている点が評価できる。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	社会倫理研究所		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年度ごとに『時報しゃりんけん』というタイトルの所報の形で文書として研究所活動の詳細を公表していることは、活動の適切性について広く世に問うており評価できる。	休日出勤の労務管理の在り方については、労働基準法を遵守して進めてください。	将来に向けた発展方策に述べられた第一種研究所員の労務管理の在り方については、2020年度に導入予定の専門業務型裁量労働制を考慮して進めてください。	労働基準法を遵守し、専門業務型裁量労働制を考慮しつつ、他の学部所属教員の動向も参考にしながら、第一種研究所員の労務管理について、検討していきます。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。				
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。				
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。				
			(2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。				
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	東海エリアで哲学カフェの実践をおこなう人たちの寄り合い場である「哲学横丁なごや」に加盟し、地域で哲学カフェを実践している人たちの連携の場を提供していることは、社会貢献を促進するものとして評価できる。			
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	アメリカ研究センター	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。			
			(2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。			
			(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

研究所/研究センター等	アメリカ研究センター
-------------	------------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	名古屋アメリカ研究会と連携したイベントを毎年継続的に開催しており、2018年度は2回のイベントを行ったことや、数年連携が途絶えていた名古屋アメリカンセンターとの連携を強化することに努め、2019年2月22日に在日米国大使館広報・文化交流担当公使、在名古屋米国領事館首席領事の来学記念意見交換会を実施したことは、社会連携を促すものとして評価できる。	名古屋アメリカンセンターから政策、外交、安全保障、貿易、経済、社会、文化など米国に関する情報等を受けながら連携を継続してください。	名古屋アメリカンセンターからの、情報提供その他の支援を受けながら、今後も継続的に、社会連携を念頭に、南山アメリカ研究センターの活動を計画立案していく。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	ラテンアメリカ研究センター	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。			
			(2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。			
			(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。				
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	一般人も参加可能な様々な講演会は、社会連携・社会貢献・地域交流の機会を促進するものとして評価できる。	研究者のみならず学外の一般市民が参加可能な講演会を通して社会貢献の取り組みを継続してください。	実例として、2019年度は 11月2日（土）に名古屋ユネスコ協会の第9回平和セミナーに主催者の1つとして参加し、研究員の永田智成先生に講演していただいた。今後も類似の活動に協力し、また一般市民が参加することのできる講演会等を実施する機会をできるだけ提供したいと考えている。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	ヨーロッパ研究センター	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。			
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	2018年度に専門分野および学科のバランス、年齢構成に偏りのない組織編成を計画できた点が評価できる。		
			(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

研究所/研究センター等	ヨーロッパ研究センター
-------------	-------------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。				
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	『ヨーロッパ研究センター報』を毎年刊行してHPで公開し、シンポジウム記録冊子も含めて関係諸機関にも送付して広く一般に現代ヨーロッパについての理解が普及するよう努めている点が評価できる。	『ヨーロッパ研究センター報』の論文数を増加する対策を講じることが必要である。	センター員による積極的な論文投稿を促してください。	センター員には、従来行ってきたようにセンター会議およびメールを通じて投稿を呼びかけるだけでなく、折にふれてセンター長らが各センター員に積極的な投稿を促すための声かけを行う。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			アジア・太平洋研究センター	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 主催講演会9回、主催シンポジウム1回、共催講演会2回、共催セミナー1回と活発な活動があり学術交流とネットワークの形成を果たしている点が評価できる。			
		(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。			
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	企画した講演会等は原則公開として学外（一般）からの参加者があり、地域社会へ研究成果を発信している点が評価できる。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			言語学研究センター		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の 「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。	国際共同研究プロジェクトや学術専門誌の編集を手掛け、アジア理論言語学会(GLOW in Asia)の本部機能も担っており、広く活発な研究・出版活動を推進している点が評価できる。			
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていますか。				
			④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
			⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	研究プロジェクトシンポジウムやワークショップには、多数の国内外研究者が参加しており、若手研究者の育成も含め、このセンターが一つの研究拠点として認識されていると言える。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			理工学研究センター		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。				
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。				
			④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
			⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

研究所/研究センター等	理工学研究センター
-------------	-----------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	全ての学科で企業との共同研究を行っていることは、社会連携・社会貢献を促進するものとして評価できる。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

			研究所/研究センター等	法曹実務教育研究センター	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入		
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示
			研究所/研究センター等が記入		
			改善計画		
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。		
		(2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。		
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。		
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。		
		(2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。		
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。		

研究所/研究センター等	法曹実務教育研究センター
-------------	--------------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	自己評定が「C」となっているように、現状では、センターの事業が弁護士に対するセミナー開催だけに留まっている。過去には法律相談が企画されていたとの事であるが、センター設立の理念・目的に照らして、今後のセンター運営を活性化するための方策を実行する必要がある。若手弁護士を外部委員として加えた企画ワーキングチームが立ち上がったので、南山経済人クラブとの連携や、法科大学院生の実務教育などの領域に事業を広げてもらいたい。	南山経済人クラブとの連携に加えて、リーガル・クリニックや法律相談など臨床法学教育を行う法務研究科の付属施設として、学生が、実務体験を通して求められる実用的な法の力を習得することを目標とする教育プログラムの再開についても検討がなされることを期待します。	院生に法律相談等の実務体験をしてもらうために、単発ないし短期間のエクスターンシップを現在企画立案をし、2020年度からの実施を目指している。具体的には、希望者を予め募り、夏休み、春休みの期間を利用して、エクスターンシップの委嘱先の法律事務所、南山修士生所属の法律事務所の協力を得て、院生の実務教育に適する個別の法律相談や証人尋問等に立ち会う機会を作りたい。また、法学部との連携を強化して行く一環として、本年度は主に法学部生を対象として、企業内弁護士として活躍している南山大学法科大学院修士の弁護士に講演をお願いして講演会を実施した。今後も法学部と連携した企画を考えたい。さらに、南山経済人クラブとの関係においては、本年度から同クラブの事務局の協力を得て同クラブのホームページにセミナーの案内を掲載して頂き、また、例会の場においてセミナーの案内のチラシを配布などをお願いしている。同クラブの要望等も取り入れ継続的な連携を取りたい。
			(1) その取り組みの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			国際センター		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。				
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていますか。				
			④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
			⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性のついて、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	インターナショナルワークのうち、ロシア、スウェーデン、コロンビア各ウィークで開催した講演会を一般公開したことや、小中学生向け講座として「いろいろな国の留学生と楽しく交流しよう！」を実施したことは、社会貢献を促進するものとして評価できる。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		研究所/研究センター等			情報センター		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入	
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。				
			(2)その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていますか。				
			④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
			⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。				

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	日本語を習得中の学生がいる場合に対して、eラーニングのコース内にふりがな付きテキスト教材を準備し対応していることは、学生の就学支援として適切なものとして評価できる。		
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】			
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

				研究所/研究センター等	人類学博物館	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。			
			(2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	専門的な能力を有する学芸員の雇用形態の立案が具体化されていない。		
			(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。			
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。			
			(2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】 FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			

研究所/研究センター等	人類学博物館
-------------	--------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	内部質保証推進委員会が記入			研究所/研究センター等が記入
			評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。			
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	名古屋ライトハウス（名古屋盲人文化情報センター）や名古屋盲学校との連携および協力、大学博物館間の連携として明治大学博物館および名古屋大学博物館との連携事業は、社会連携・社会貢献を促すものとして評価できる。		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	外部有識者による博物館評価の実施が検討されている点が評価できる。	具体的な博物館評価の実施計画を策定してください。	2019年度中に2回実施する。12月に6名の外部評価委員に来てもらい、人類学博物館内にて第1回目を実施した。その際には、過去5年の入館者数等の定量データと来館者アンケート、来館者行動調査のデータ、博物館スタッフの自己点検報告等に基づいて、概要の説明をした。第2回目は3月に実施する予定であるが、第1回目の委員会で博物館運営および評価について様々な問題点が指摘されたので、当初計画していた公開での評価ではなく、博物館の運営・評価体制の見直しについての意見を求める方向に修正をしたい。なお、実際の運営・評価体制の見直しについては、人類学博物館運営委員会等での議論を経て、2020年度中に固められるようにしたい。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			将来構想委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
3	グランドデザインの中間総括		「グランドデザイン」の中間総括となる中間報告書の作成が遅れている点。	中間報告書の作成と刷新された「グランドデザイン」の公表、その実現に向けて取り組んでいただきたい。	2018年の段階で、中間報告の骨子までは作成しているが、その後、報告書の形に整えるまでに至っていない。一方で、2020年2月末までに、学校教育法の改正に伴い「中期計画」の策定が求められている。それを反映した形で、「グランドデザイン」の第2期（2014-2020）の最終年度となる2020年度中に、中間報告書の作成と「グランドデザイン」の刷新、公表に取り組んでいく。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織		個人情報保護委員会	
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	「情報セキュリティマニュアル」の見直し		既に確認済みの修正が必要な箇所への対応や内容の妥当性の確認が遅れている点。	情報センター等の他の関係部局とも協力して「情報セキュリティマニュアル」の見直しを至急進めていただきたい。	すでに情報センターと内容の見直しを完了しており、2019年度中には、改訂版を施行する予定である。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			コンプライアンス室
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	コンプライアンス室の管掌事項と他組織との関係の整理	教員・事務職員の法令遵守意識の向上に尽力している点。	危機管理マニュアル（2017年度改訂）に決められた「必要に応じてコンプライアンス室に相談すること」に関する具体的な状況や手順等が不明確である点。	我が国のみならず欧米諸国を中心に、世界的に法令遵守への機運が高まっており、大学に対して文部科学省のみならず、マスコミの監視が厳しくなり、社会の注目も高まりつつあります。法令順守意識の更なる向上のためには、身近な問題も軽視せず、取り上げる姿勢を示すことが重要であると思います。ぜひとも改善すべき点に挙げられている課題に早急にお取り組みいただきたいと思います。	危機対応については、総務担当副学長が行い、対外的な危機対応となる場合は、総務担当副学長が学園の危機対応担当理事と協議し、必要があれば、学園での対応を依頼する運用とし、この形に整合させるため、コンプライアンス室から危機管理担当を除く規程改正を行う。規程・協定等の確認については、どのような場合にコンプライアンス室への確認が必要になるかを示した文書を依頼先となる各事務課室に配付し、周知徹底する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織		IR推進委員会	
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	IR分析基盤構築	IR分析基盤が準備され、データ分析が可能となったこと。そのことが試行的なデータ分析を通して検証されたこと。	【課題】として挙げられている内容についての解決策を示す必要がある。	IRが実践段階に移行するのであれば、IR活動方針に基づき、IR機能の学内での利用方法（IR推進室への依頼手続きや分析結果の開示方法等）や必要となる予算措置について検討・提案していく必要があると思われます。	2019年度は、大学執行部がIR推進室メンバーからIR分析基盤によってできること、IR分析アプリケーションのユーザインタフェースを提供するBI（Business Intelligence）ツールの利用方法等の説明を受ける機会を設けた。現段階では、IR推進室における分析対象は、学長方針にある「入試」データの蓄積および分析にとどまっており、またIR機能の担い手も、IR推進室、入試課および情報センター事務室のスタッフに限定されている。2020年度以降、入試以外の学修支援、教育の質向上のための取組へ拡大するとともに、各課題の改善業務を担う教員、事務職員に対して広くIR分析基盤によってできること、BIツールの利用方法等を説明する機会を設けていくことを目標とし、その具体化を目指す。その中で学内手続きの整備にも着手していく。上記の計画が順調かつ確実に遂行できるように、予算については中長期的に策定する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織	ハラスメント問題対策委員会
----------	---------------

No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
7	現行の相談体制・手続きの検証と、より望ましいり方の検討	様々な属性の構成員へのハラスメント防止のための周知や関係委員の研修や他大学の実態調査などを行い、より望ましい相談体制の確立に尽力している。	心理的なケアが必要となってきたが、現行の相談体制においてその専門性を備えることが難しい現状への対策が必要である。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			キリスト教センター運営委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	宗教心の涵養にかかる事業の実施展開	学外者も含めた様々な学習講座や文化活動を活発に行っている点。	運営が担当講師に委ねられている部分が一部にあるようなので、事務室による適切な運営体制の確立が望まれる。	南山大学の教学理念に深くかかわる意義ある活動ですので、是非とも継続的にご尽力いただきたい。	講座運営のための教材印刷、欠席者への連絡、資料配布を事務職員が行っている。一部の講座ではお茶・お菓子の提供も続けている。また受講生募集のお知らせの掲示作成等、周知に関する業務を依頼される場合もある。いずれにしても講師から依頼をされての補助的業務であり、運営体制の確立までは至っていない。今後、講師・受講生の環境を整えていく体制を継続し、協力する予定である。
3	学習支援活動	参加する児童・生徒と保護者ならびにボランティアの間に信頼関係が醸成されている点。	事務職員の業務負担増などの問題。	地道な努力に敬意を表します。ただし、事務員の負担軽減のための省力化には限界があるかもしれません。事務業務についてもボランティアを募るなどの対策が必要な気がします。	学習支援に参加している児童・生徒の中には、個性的で特別な対応を必要とする場合がある。これ以外の児童・生徒には事務の負担は少ない。 特別対応が必要な児童・生徒は当日の授業直前のキャンセルも多く、保護者、ボランティアに対してその連絡・調整のために事務職員の負担が学習支援活動当初より課題とされている。定時以降の諸対応については、はログスセンター在住の先生方(神言会員)に協力を依頼することで事務職員の負担を軽減している。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			SD委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	教育職員のSD活動への参加	教員を含めた研修会や講演会を実施し、参加実績もそれなりに確保されつつある点。	まだ教員の参加が少ない点。	事務職員と教員が連携して対応すべき課題が多くあることに鑑み、SDとFDの共催など、事務職員と教員の連携の提案や教員のSD企画への参加を奨励する必要があると思われます。	教員の参加に関しては、各学部長らと連携を図り、個々の教員に強く働きかける。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			予算委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学納金改定および支出削減計画策定小委員会の活動内容	「学納金改定および支出削減計画策定小委員会」を設置し支出予算削減に関し一定の成果を挙げることができたことは評価できる。		収入の減少など収支に大幅な影響を及ぼす事象が発生した場合は、学納金改定および支出削減計画策定小委員会が速やかに検討を行い、予算委員会に対して対応策を提案する必要があると思われます。	2019年11月14日付学長名文書「2020年度予算編成に際して（お知らせ）」で触れている通り、入学者数が確定し当年度の収入見込額が固まった時点で、学納金改定および支出削減計画策定小委員会において、収入見込額に応じた計画の見直しを検討することとします。
2	財務シミュレーションを意識した大学運営・業務遂行	財務シミュレーションを適時に提示することにより、中長期的な財政的な見通しが明確になり、委員会内である程度共有できたこと。	シミュレーションの提示に留まらず、事業の継続や新事業の実施にあたっては、シミュレーションに基づく財政的な見通しを踏まえた財政的な観点からの議論が必要である。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			入学試験委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	カトリック系高等学校を対象とした入試制度の変更への対応	周知期間が短かったにもかかわらず一定の受験者数を確保できたことは評価できる。		新たに実施した「特別入学審査」については、カトリック系高校側から入試日程や出願書類などについての様々な意見が寄せられているとのことであるので、各学部・学科と意見を共有しつつ、本学にとってより良い制度設計を行っていく必要があると思われます。	従来11月に実施してきた「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」を廃止し、「特別入学審査」に統合することについては、一部のカトリック系高等学校からは反対の意見も出ていたが、個別の高校訪問や文書の送付などを重ねることにより、丁寧に説明を行い、理解を得ることができた。「特別入学審査」の入試日程についても、これを踏まえて検討を行い、次年度（2021年度入試）からは試験日を11月下旬に変更した。出願期間を10月から11月初旬に時期を遅らせるため、各高校における進路指導の時間的な余裕が生まれることになる。今後も、「活動報告書」等の出願書類の準備に関して、高校教員対象説明会（6月）やオープンキャンパス（7月）、高校訪問等の機会を活用して、高校教員や受験生の対応を継続していく。また、「活動報告書」の様式自体についても、2021年度入試からの主体性の評価導入の流れを踏まえながら、記載項目等の見直し・改善に取り組む。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織		試験運営委員会	
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	Q棟内の掲示と受験者の案内	全ての点検・評価項目に共通して、運営面で出た問題や課題に対して改善に取り組んでいる点は評価できる。		入試は多数の受験生という最も外部に触れる機会でもあり、混乱が起きると取り返しがつかないダメージを生じかねません。問題が生じず、受験生には十分に力が発揮できるように、今後ともご尽力ください。	受験生がスムーズに各自の試験室に入室できるよう、引き続き、掲示物の仕様や掲示場所の改善を図りたい。また、改修工事により整備されたキャンパス構内のサインも活用しながら、分かりやすい試験場案内に努めたい。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			入試広報委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	オープンキャンパス満足度向上	保護者向けのプログラムを新たに実施して効果を上げている点。	熱中症対策と低下しつつあるアンケート回収率の向上の工夫。		
3	WEBページによる受験生への広報活動		現在の学生のIT状況からみて、WEBページの多くがスマートフォン対応できていないのは問題なので、早急に対応する必要がある。	効果的な広報活動と限られた資源の有効活用の両面からスマートフォンへの対応をさらに進めていく必要があると思われます。	2019年10月1日より受験生向けページ「受験生の皆様」のスマートフォン対応を行った。スマートフォン対応においては、スマートフォンによる閲覧時の利便性向上を優先事項とし、ページ構成の見直しやデジタルパンフレットの拡充を実施した。 更なるスマートフォンへの対応として、オープンキャンパス等の各種イベントにおける活用を計画している。具体的には2016年度まで実施していた模擬授業等の事前予約制を復活し、参加証や受講証などをスマートフォンで当日提示することを予定している。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			大学院入学試験委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	入学試験の実施と志願者確保施策	外国人留学生別科生への働き掛けを行い、志願者確保につなげたこと。	定員が未充足の状態にあること。	定員未充足の問題に対しては、外国人留学生別科への更なる広報や、これまで一部の研究科や専攻が独自に実施し、成果を上げてきた広報活動を共有し、バックアップするなど、全学的な取組みの強化が求められているのではと思われます。	研究科・専攻での独自の効果的な広報活動の取り組みについて本委員会でも共有し、他の研究科・専攻での導入について、必要な予算措置を含めて検討する。特に、既に実施している大学院入試説明会への学内生の参加を促すため、告知方法を検討する。 各研究科・各専攻において、定員充足に向けた取り組みについて検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			大学院入学試験運営委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
3	入学試験要項・パンフレット作成	2019年度4月入学分より要項とパンフレットを改訂し、4月と9月入学との選択がより明確化した点。	大学の信頼の観点からも、要項のミスや再印刷は重大事態なので、校正の手順・スケジュールを見直す必要がある	とりわけ減少が目立つ博士前期課程の志願者の回復のための全学的対策の立案と実行のために、広報その他で独自に工夫や努力を重ねている専攻の事例の全体化が望まれるように思われます。	各専攻が独自に実施している広報活動の取組事例を本委員会で共有し、効果が上がっている取組について、他の専攻での導入を検討する。また、併せて、全学的に実施している大学院入試説明会の内容等の見直しについて検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			学生委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学生生活全般の対応	通学マナーや敷地内禁煙、飲酒・宗教勧誘・SNSなどの問題への対策が適宜に実施されている。		通学マナーや路上喫煙などの問題に加えて、従来見られなかった学生の非社会的行動が増加する懸念も高まっており、それらに関する事例や教員の対応方法などの情報提供を期待したい。	本年度、新たに、路上喫煙の状況について協議会、学生委員会で報告書という形で報告し、ポルタでの注意喚起や学生委員を通じた学科別の注意喚起などを新たに統一的に進めている。入学式にはマナーとルールについてパンフレットの他にクリアファイルを配付し啓蒙に努めた。引き続きこれら情報提供を継続的に行い、内容を改善していく予定である。
2	委員会の適切な運営		スマートフォン等の新技術を使った不正は数年前から行われており、早急に具体的な対策を練る必要がある		
4	課外活動団体の支援・指導	学長表敬訪問やクラブ部長・奨励コーチの委嘱方法の改善など課外活動の奨励・支援のための活動が行われている。	各クラブの安全対策や運用方法について、早急に決定する必要がある。	重大な事故につながりかねない機体や船舶を扱う団体への指導に関しては喫緊の問題であると思われれます。	本年度、船舶、航空機については、その管理の在り方について内規を定めることとした。また、その内規に沿って名義を改め、学生部内で定期的にチェックする仕組み（会議で報告するなど）を整えた。また、該当する課外活動団体には、それに基づいて管理するように指導を行うこととした。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			保健管理委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学生からの合理的配慮申請への対応	特別修学支援室スタッフ3名全員が年度末に退職したが、意欲ある新規人材が確保された点。	これまで特別修学支援室と他の2室のスタッフの連携が個人的なアプローチレベルに留まっていること。	教員の側からすると、合理的配慮が必要な学生の存在の告知のみならず、彼らへの具体的な対応のための簡略な手引書等があるとありがたいです。そのための講演会やワークショップの開催にもご尽力いただきたいと思います。	合理的配慮学生対応に関する要点をまとめた手引きリーフレットを作成の上、配布する（2020年度中に保健センター・特別修学支援室にて手引きリーフレットを作成）。 また、学生個別の対応について詳しく知りたい教員対象に、昼休み時間に行うワークショップの開催等を検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			保健センター
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学生定期検診	1～6の点検・評価項目をまとめてとなりますが、学生・職員の健康管理に関する様々な取り組みが行われている点は評価できる。	学年が上がるにつれ、学生の健康診断受診率が低下することと教員の健康診断受診率が低い点。		
10	学生相談室の運営		発達障害も含めた、より広いニーズへの対応。	是非とも教員に対して最低限の日常的な対応の原則だけでもレクチャーする講演会やワークショップを主催していただきたい。	キャンパスライフの中での、学生の発達障害を含めた心理面への対応等について、教員を対象としたレクチャーやワークの実施を特別修学支援室が中心となり学生相談室も連携し検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			全学カリキュラム委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	共通教育科目の開設および編成	前年度比の抽選漏れ学生数の減少。	教室改修工事の完了に伴う授業定員数の緩和による抽選漏れ学生の更なる減少化。	教員間の共通教育科目担当の公平性の確保や定員設定の原則の確立に取り組んでいただきたい。	全学向け科目提供数は全学部学科等の教員配置状況に基づき、毎年協議会にて協議・了承されている。その枠の中での教員間の公平性の確保については、各学部学科等に委ねている。2020年度は本委員会でも、教員間の公平性に留意しつつ、充足率を向上させるよう委員（学部長・センター長）に呼びかけ、理解を求める。 定員設定について、2020年度までは基本的に国際教養学部設置申請のために文部科学省に提出した文書にしたがう必要がある。2021年度以降は理工学部改組のために文部科学省に提出した（あるいは提出予定の）文書の制約がある。ただし、その文書に記載されているのは理工学部生が履修する科目であり、全学的には定員設定の変更等に柔軟に対応できる体制を整えてある。
2	共通教育科目の担当・委嘱情況	授業開講目標の充足率が100%を超えている点。	英語を除く外国語系科目が外国語学部の当該学科教員に依存している点。また、学部・学科間の教員負担の不平等を減らすためにも、基盤・学際科目等の不足状況について各開講主体によりわかりやすく示す必要がある		
3	共通教育科目と学部共通科目および学科科目との調整	クォーター制移行に伴う科目配置の確立が達成された点。	国際科目群に指定された授業の履修者の減少への対応。	国際科目群の履修者が減少傾向にあることにも鑑み、国際化ビジョンの達成に向けた国際科目群の意義や履修のメリット等の広報の強化に取り組む必要があると思われます。	2019年度より教務部次長を中心に将来に向けた国際科目群の充実に向けた検討を開始した。まず、2019年10月に検討課題を整理した。2020年度には、英語以外の外国語で実施される科目の取扱い、Certificateの意義、教職員と学生への広報、国際科目群の管理・運営体制等の課題について、具体的な検討を進めることを予定している。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			共通教育委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
3	共通教育委員会の登録者数、抽選漏れの確認	抽選漏れに伴う大きな問題のチェックがなされている点。		適切性の確認に留まらず、学生の満足度をさらに高めるための検証（例えば適切な定員設定、開講授業数など）・改善活動についてもご検討ください。	2020年度までは、基本的には国際教養学部設置申請のために文部科学省に提出した文書に従う必要があるため、「それに従う」という方針にせざるを得ない。2021年度以降は理工学部改組のために文部科学省に提出した（あるいは提出予定の）文書の制約があるが、その文書では科目を制限して記載するなど、科目の変更に柔軟に対応できる体制を整えてある。
4	共通教育科目の運営	授業科目の適切な運営に向けたチェック体制ができている点。	特になし。	適切性の確認に留まらず、学生の満足度をさらに高めるための検証（例えば適切な定員設定、開講授業数など）・改善活動についてもご検討ください。	2020年度までは、基本的には国際教養学部設置申請のために文部科学省に提出した文書に従う必要があるため、「それに従う」という方針にせざるを得ない。2021年度以降は理工学部改組のために文部科学省に提出した（あるいは提出予定の）文書の制約があるが、その文書では科目を制限して記載するなど、科目の変更に柔軟に対応できる体制を整えてある。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			基盤・学際科目委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
3	次年度の基盤・学際科目の時間割編成			確認が後手にまわった原因を洗い直し、今後に向けて何をすべきか検討いただきたい	再課程認定申請の文書との整合性の確認が不十分であったこと、また、専任の科目担当者の定年の確認が不十分であったことから、年度末に開講クラスを減らすことになった。今後、文部科学省申請に関係する部分については、執行部との確認をより丁寧に行う必要がある。また、専任教員の定年についてはより確実な確認をするよう事務作業のルーチン化を行っている。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会／事務組織			博物館学芸員養成課程委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	2017年度を最後に、博物館担当教員は人類文化学科の演習担当から外れた。学芸員養成課程科目と博物館担当教員の演習科目は、高度な専門性を求められる学芸員となるには欠かせない大学院への進学に導く両輪となっていたが、博物館担当教員が演習をもたなくなると、大学院進学率の低下（ひいては学芸員になる可能性の低下）につながる可能性がある。	担当教員が運営に専念できるようになったこと。		担当教員が課程や博物館の運営に専念することができるようになったメリットに加えて、他の人類文化学科の教員が授業で博物館を活発に利用することにより、課程の履修者や大学院への進学者がどのように推移するかについての継続的な検証をお願いしたい。	人類文化学科の教員による博物館を利用した授業の履修者数、博物館学芸員養成課程の履修者数、大学院への進学者数を毎年確認することにより、博物館学芸員養成課程委員会においてその推移を継続的に検証していく。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			教職センター委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	教職課程履修者の維持・改善	持続的好景気も背景となって近年は履修者数が減少していた一方で、センターの利用者数は増加していること。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学生の学力やモチベーションを高める工夫	受講生の履修カルテ（ポートフォリオ）を作成して学生自身による履修状況の把握ができるようにした点。		AI化が進む中で、司書業務が先細る現状において、本課程を受講し資格を取得することと、進路の確保について学生が展望を抱けるような、新たな需要に関する広報が必要であると思われます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司書課程のガイダンスでは、資格が図書館のみならず地方自治体、マスコミ・情報通信業界に就職する際にも活かされることを説明する。 ・ 学校図書館司書教諭課程のガイダンスは、2020年度から教職課程ガイダンスと同時に行い、教職志望者にもその魅力を説明する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			外国語教育センター委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	授業	共通教育委員会との連携の下、担当授業科目を安定的に提供できた点。			
3	FD	少人数クラスでの対話的授業の効果の共有化などの成果。			
5	英語プレイスメントテスト	適切なクラス分けの実現。			
9	ワールドブラザ			効果が上がっている点や改善すべき点が特に見られないとのことですが、さらにより良い運営が継続されるような方策についてもご検討ください。	ワールドブラザは、学生たちが外国語のみを使ってコミュニケーションを行うことで、授業などで修得した外国語能力に磨きをかける場所として機能している。教員の指導を受けるのではなく、学生たちが自主的にコミュニケーションをとりあうことが想定されており、それを学生TAたちがサポートする仕組みになっている。学生の主体性を尊重した南山大学らしい施設である。これらの特徴を維持することで、学生たちの期待に応え続けることを目指す。また、適切な頻度でイベントやアクティビティを実施することで、学生同士のコミュニケーションを促すように努める。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			就職委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	職業指導の充実	就職ガイダンスが役立ったとする学生の割合が増えた点。最終決定進路の満足度が95.25%と極めて高い点。	3年生向けのスタート面談の参加者の少なさ。	進路決定は学生の人生を左右する重要な活動であり、学生の卒業時の満足度を高めるためにも、比較的早い時期からの学生の納得のいく進路の決定と準備への意識を高めることが重要であり、各指導教員の意識の高揚や保健センターなどとの連携の強化が求められていると思います。	各指導教員の就職活動支援に対する意識を高揚させるため、2019年12月にSD企画を実施した。今後も定期的にSDあるいはFD企画を実施していきたい。保健センターとはこれまでも連携している。今後も定期的に情報交換を行い、双方向で支援し、さらなる連携を推進する。
2	職業指導に関する広報活動	新たな職業指導に関する広報活動としてキャリア支援室利用講習会を複数回開催し、利用の向上に努めていること。		指導生を持つ教員や教員を通じた広報にも積極的に行っていただければと思います。	委員会委員を通じて教授会でのアナウンス、年2回の進路希望調査時に案内文書送付によるアナウンスを行う。
3	進路把握率	卒業式当日における進路確認による把握率の向上。	進路届の提出が重要であるとの認識を学生にさらに浸透させること。	指導生を持つ教員への協力の呼びかけも積極的に行っていただければと思います。人的なつながりの活用のためにも、各指導教員による指導生の進路把握努力が重要であるとも思われます。	教員の就職活動支援に対する意識の向上のため、2019年12月に実施したSD企画を、今後も定期的に実施する。なお、指導教員のキャリア支援に対する意識の高揚を目指した全学的推進を執行部にもお願いしたい。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			キャリアサポート委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	キャリアサポートプログラムに関する広報活動	新設のQ棟廊下掲示板などへのポスターを通じた広報の強化、2018年10月から昼休みに始めた学生生活デザイン・セミナーには計2回の開催に対して352名もの参加が得られ、満足度も高い点。	入学ガイダンス時の活用など、PORTAを見ない学生が多い現状への対応。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			国際センター委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	多文化交流ラウンジの活性化	Nanzan International Ambassador (NIA) として学生スタッフを採用した様々なイベントを年度内に計10回開催したこと。スウェーデン大使館の協力を得て様々な催しができたこと。	学生の参加の増やすための方策。	教授会や研究科委員会も活用し、広く教員に周知させることも、効果的な広報であると思います。	大学協議会ではイベントの紹介をしておりますが、教授会や研究科委員会等直接教員に周知できる機会を活用し、より効果的な広報活動に取り組みます。
2	外国人留学生別科の更なる発展	協定校の増加とともに外国人留学生別科への出願者も増えていること。	日本語非専攻学生の受け入れ。	各研究科との連携を強化し、説明会の開催など、外国人留学生別科生に対して、是非とも大学院の広報を強化していただき、志願者を増やすための一助にしていきたい。また、国際化の推進は例年の学長方針でも強調されており、協定校や志願者の増加に合わせたハード・ソフト両面からの本学の受入れ体制についても検討・提案が必要となってきたと思われる。	大学院入試の広報は海外で開催される留学フェア、日本国内で開催される進学相談会にて、本学への留学を志望する学生に対して行っていますが、今後は、別科在学生に対する学内での説明会開催についても検討を行います。また、交換留学生受入れシステムの拡充に向けたワーキンググループを設置し、交換留学生の学部・大学院受入れや別科の新たなプログラム設置を検討しています。留学生の増加にともなう宿舍の取得についても、あわせて検討を開始しています。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			情報センター運営委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	BYOD環境整備	Wi-Fi環境やネットワークプリンタ機能の向上、新生へへのPC購入斡旋の改善。	BYODの実態把握と実態に応じた新生へのPC購入斡旋。	BYODの意義に関して、学部教授会を通じて広報していただきたい。	2021年度の入学生に対するPC斡旋に向けて、斡旋PCの機種選定に関する進め方の変更が2019年12月9日開催の大学協議会で承認された。各学部学科に以下2回の意見聴取を行うことで、BYODを前提とした教育の意識付けを図り、活用を促す予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [学部学科] 必要条件について意見聴取 (6月頃) ・ [学部学科] 必要条件に基づき選定した機種について意見聴取 (9月頃) ・ [情報センター運営委員会] 斡旋機種の決定 (10月頃)
2	eラーニング環境整備	WebClassの活用支援や操作環境の改善への取り組み。	学部FDと連携するなどして、WebClassの利用率を高めるために、知識の乏しい教員に対して一層機能の紹介に努めていく必要がある。	WebClassの活用に関しては、情報センターによる講習会等の開催と並んで、学部等のFDを通じて、実際の授業での実践例を踏まえた活用の浸透を図る必要があると思われま。	2018年度より、eラーニングシステム(WebClass)の活用をテーマに情報センターFD企画を実施している。併せて学部FDとも連携し、これまで総合政策学部、外国語学部のFD企画に協力し、紹介に努めている。引き続きeラーニングシステムの活用を促進するために、以下の施策を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報センターFD企画 (授業における実践等の紹介等) ・ 学部FDへの協力 ・ 動画マニュアル (入門編各5分程度) の紹介 (テスト作成編、レポート課題作成編、資料作成編、アンケート作成編) ・ 個別サポート

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			図書館委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	現在の図書館の顕著な老朽化に伴う問題を解決するための対策				
2	狭隘化を解決するための対策	学外書庫の活用によるスペースの確保。		資料の所在が「学外書庫」である場合には図書館側はもちろん、利用者の側にも不便が生じています。学外書庫の活用は図書館内書庫の狭隘化の解決には有効と考えられますが、同時に利用者サービス面から学外書庫を利用することの検証作業も必要と思われます。	2017年度キャンパス統合時に瀬戸図書館の蔵書を、2018年度以降は名古屋図書館の蔵書の一部を学外書庫へ移設し、運用してきている。学外書庫からの取り寄せ冊数は2017年度2375冊、2018年度2218冊、2019年度（12月末時点）1579冊であった。今後は取り寄せされている資料を検証し、図書館のスペースを考慮のうえ、継続的に検討して配架の適正化を図りたい。また、学外書庫に特化するものではないが、図書館サービスの充実に向けて、現在学生向けにアンケートを実施しているため、その結果も今後の検証に活用する予定である。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			自己点検・評価委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	委員会の活動（自己点検・評価）			内部質保証推進委員会との関係性や役割分担について、明確にする必要があると思われま	内部質保証推進委員会での原案の審議を経て、内部質保証推進委員会との役割を明確にするため、内部質保証の方針および内部質保証システム体系図の制定について審議を行っている。（第4・5回委員会） また、自己点検・評価委員会の名称を「内部質保証委員会」に変更するとともに、両委員会の役割を明確化するため、「南山大学自己点検・評価規程」「南山大学内部質保証推進委員会規程」の改正について審議する予定である。
2	委員会の活動（外部評価委員会）			外部評価委員からの提言をどのように受け止め、どのように取り扱うかについて、様々な関係者の意見も踏まえてご検討ください。	外部評価委員会からの提言に基づき、内部質保証推進委員会での原案の審議を経て次のことを審議した。 1. 提言について2019年度、2020年度および中長期的に取り組むべき課題に仕分けし、検討事項をまとめた。（第4回委員会） 2. 提言に対する取り組むべき課題、検討事項、取り組み状況について2019年度の外部評価委員会の資料とした。（第5回委員会） 上記の取り組みについては、2019年度外部評価委員会（2020年1月11日）での提言を踏まえて、引き続き取り組んでいく予定である。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			内部質保証推進委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	委員会の役割	内部質保証推進委員会の新設による内部質保証の実効性の向上。	自己点検・評価委員会との関係性や役割分担が不明確であること。	自己点検・評価委員会との関係性や役割分担の明確化に関して、是非ともご検討いただきたい。	親委員会である自己点検・評価委員会との役割を明確にするため、次の原案を検討し、自己点検・評価委員会に上程した。 1. 自己点検・評価委員会および内部質保証推進委員会の役割を明確化することも含め、内部質保証の方針および内部質保証システム体系図の原案を検討した。(第2～5回委員会) 2. 自己点検・評価委員会の名称を「内部質保証委員会」に変更するとともに、両委員会の役割を明確化するため、「南山大学自己点検・評価規程」「南山大学内部質保証推進委員会規程」を改正することについての原案を検討した。(第4回委員会)
2	委員会の活動	膨大な資料の丹念な分析が行われている点。	委員の仕事の多さ。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織	パッへ研究奨励金配分委員会
----------	---------------

No.		内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	①パッへ研究奨励金について、適切な審査体制を整備しているか。	申請者と利害関係にあると思われる委員を審査の場から外すことで、より中立性を高めた点。	申請者と委員との利害関係の具体的な内容の検討。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			FD委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	「学生による授業評価」アンケート回収率の低下		2015年度春学期の66.81%から2018年度Q4の42.15%へ顕著に低下していること。	全教室でのAXIAが利用可能となったことで、また各授業担当者の督励で、かなり問題の解決が図れているのではないかと期待しています。一方では、このアンケートがどのように生かされているのかを学生に提示し、理解と協力を求める取り組みを継続して進める必要があると思われず。	全教室でのAXIAが利用可能となったことでwebによる学生の授業評価は容易となった。しかし、以前のマークシート方式のときはマークシート提出後に教室を退出するという手順のため、回答に一定程度の「強制力」が働いていた事と比べると、webによる授業評価の場合はその強制力が弱いため、回答率が低下したという理由が考えられる。 一方で、学生による授業評価はあくまでも自主的な回答を求めているので、内部質保証推進委員会のご指摘、「アンケートがどのように生かされているのかを学生に提示し、理解と協力を求める取り組みを継続して進める必要」はとても重要である。 学生向けへの、授業評価の結果のまとめの提示を改善して、回答率を高める工夫に取り組みたいと考えている。
3	「学生による授業評価」自己点検・評価報告書の提出率上昇		授業担当者への入力スケジュールの徹底し、提出までに2~4か月程かかる現状を改善する必要がある。	提出率の低下傾向の歯止めと改善のための厳格な措置の必要性について検討が必要があると思われず。また、授業評価で高得点を得ている授業担当者を交えたワークショップの開催についてもご検討ください。	授業担当者による提出率は低下しているとは言えないが、提出期限までにきちんと提出された数は減少しつつある。これについて改善方を検討したい。 また、全学のFDの取り組みの一つとして、授業評価で高得点を得た担当者を含めたワークショップやシンポジウムの開催を検討したい。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			研究審査委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	倫理審査の効率化	倫理審査案件が増加する状況において、申請書書式の変更（簡略化）により、申請者の負担軽減が図られ、形式的不備の指摘が大幅に減少していること。			
2	外部資金受入審査および手続きの迅速化	メール審議の活用により、手続き期間が半分以上短縮されていること。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			大学院委員会
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	入学者の増加	特になし。	定員充足率が博士前期課程で53%。後期課程では29%という現状	学内生向けの進学説明会や社会人向けの講演会、修了生や企業の採用担当者も交えたキャリア支援プログラムの実施など、志願者の増加へ向けた取り組みを進めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・既に実施している大学院入試説明会への学内生の参加を促すため、入試課と協力して告知方法を検討する。 ・キャリア支援の取り組みを行っている研究科においては、2021年度の募集に向けてその取り組みについてパンフレットやWebページ等を通じて発信を行う。 ・各研究科・各専攻において、定員充足に向けた取り組みを検討し、2020年度内に具体的な方策を提示する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織		学務部	
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	超過勤務の削減と業務の平準化	特定の課室を除き、全体的に減少している点。	超過勤務については働き方改革の観点からも喫緊の課題として早急に取り組むべき問題であり、削減が進まない課室における対策の検討が必要である。	他の課室の協力による超過勤務の解消に向けた努力のみならず、なぜそのような状況に至っているのか、原因を突き止めていただきたいと存じます。また教員の側からの協力も不可欠だと思います。まずは勤務の厳しい実情を各教員にしっかりと理解をさせる努力から始めるべきだと感じています。	特に超過勤務の多い課室については、以前発生したミスへの対応、頻繁な休日出勤による週40時間を超える超過勤務への対応が課題と認識した。前者については業務フローの見直しによるミスの防止が主な対応とならざるを得ないが、緊急性により業務を区分し、対応スケジュールを明確にする。後者はスケジュール調整による同一週での休日振替を進めていく。また、全体としては複数係間でのさらなる連携、業務の再配分も進めていく。教員への理解については、事務サイドとしては有り難いご指摘として受け止めているが、具体的な方策については教学上の役職者（教務部長等）と意見交換しながら進めていきたい。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			学生課
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
4	学生支援体制の適切な整備	週1回の学生部会議の開催による諸問題の共通認識の確立。		長年ゼミ生の相談を受けてきた経験から、まずは指導教員が様々な相談を気軽に受けられるような、教員の側の意識改革が求められていると思います。保健センターとも協力して、是非ともカウンセリングの基礎知識や「半グレ」の浸透などの新たな社会問題の実態や対処法等に関するセミナーやワークショップを開いていただきたいと思います。	学生を取り巻く新たな社会問題や多様な学生に対応するために必要となるスキル等について、各種情報提供や講演会の開催等を検討したい。
5	障がいのある学生に対する就学支援および学生の相談に応じる体制の整備	「合理的配慮サポートチーム」や「障がい学生に対するサポート体制についての情報共有会議」の開催など、授業や試験における合理的配慮を必要とする学生の要望に沿った支援体制が確立され、文科省の指示によるモニタリングでも当該学生から高評価を得ていることは評価できる。	入学後の追加要望に迅速に対応するための体制づくり。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			教務課
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	カリキュラム編成および履修に関する事項	2018年度においては全ての授業科目において15回の授業回数が確保できた点。	授業日程が曜日等の関係に大きく依存し、安定的な授業日程が作成できない点	クォーター制度導入第4年度を前に、更なる問題点の洗い出しと修正をお願いします。	2018年度までは曜日によって15回目の授業を別曜日・時限に設定する必要があり、学生・教職員に混乱を招いたが、2019年度は土曜日を除き、8週間確保する学年暦とすることでこれを改善した。2020年度も同様の学年暦を継続している。一方で祝日の授業実施やQ2の定期試験が8月上旬まで続くことによる留学出発への影響などの拡大したこととなる。これらを是正するため、2021年度から100分授業に移行する方向性が全学的に了承されているため、教務課では2020年度中に100分授業実施のための具体的な準備を進める。
3	成績管理に関する事項	従来から運用が変更された卒業論文の厳格な受領と担当教員への迅速な受け渡し。	事務職員の超過勤務が膨大であること。	原因を分析したうえで、是非とも事務職員の超過勤務の解消に努めていただきたいと存じます。その際、運用変更やシステム化、外部委託化の効果の検証についてもお願いしたい。	2019年度は教務課基本方針に「毎日ひとり15分残業時間を削減する」ことを目標に掲げ、超過勤務を削減する意識を課員全員が毎日持つことを目指している。加えて、外部委託化やシステム化が認められた事柄について、運用を開始している。2020年度には、引き続き、日々の超過勤務を無理のない範囲で抑制することを目指しつつ、超過勤務の理由を分析する。毎年必ず発生する業務、単年度のプロジェクト的業務、不測の事態への対応など超過勤務の理由を分類し、それぞれに対策を検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

		委員会/事務組織			キャリア支援室
No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	キャリア支援室の利用の促進	キャリアカウンセラーの増員。	新たに開始したキャリア支援室利用講習会の参加を呼び掛ける広報。	様々な悩みを抱える学生の身近な相談相手である各指導教員の意識改革と適切な対応に向けて、保健センターとのタイアップも含めて、ぜひともセミナーやワークショップの開催をお願いしたいと存じます。そのような出口におけるきめ細かい配慮は、必ずや社会の評価を受けると確信します。	教員の就職活動支援に対する意識の向上のため、2019年12月に実施したSD企画を、今後も定期的に実施する。
2	相談体制の充実	専門的なキャリアカウンセラーの増員による相談体制の充実化の達成。	年間を通じてのキャリアカウンセラーの活用方法。	指導生を持つ教員向けのFDを、学部との共催で計画されてはいかがでしょうか。	2019年12月にSD企画を実施した。学部のキャリア支援委員会委員や学事課と情報交換し、FD企画の共催を検討する。

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織	委員会/事務組織	学事課
----------	----------	-----

No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	学部事務室専任・専任嘱託2名体制の構築	学部事務室業務の増大が予想される中、2名体制が確立されたことは労働負担軽減と間違いの未然防止などの面から評価できる	新採用・新配置職員の習熟化と年休取得率の向上。	これによりかなり学部事務職員の負担が軽減されましたが、まだまだ十分とは言えません。どうか引き続きのご配慮を願いたいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> 各学部事務室内での情報共有と各人の担当業務への理解を引き続き進める。 学部が異なっても学部事務室で共通する業務は、学事課全体で情報共有・意見交換をして効率的な手法を模索・採用してそれぞれの業務の効率化を図る。
3	学生セミナー室、学生ロッカーの運用	大過なく運用開始できた点。	年度末の残留物の処理対応など、混乱が生じないよう早急に方針を決定する必要がある。		

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織	エクステンションカレッジ事務室
----------	-----------------

No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
3	公開講座の語学講座における講座変更と受講料返還の取扱い変更	2019年度から一定の条件下で受講変更が可能となり、受講料の返還もされるようになったこと。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織

図書館事務課

No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
1	組織・人員体制	図書館システムの安定化に伴う超過勤務の減少。	学術情報系の業務分担及び人員配置。		
5	全学的な資料管理運営に係る連携	すべての研究所・地域研究センターの整理業務を包括的に受託することで、全学的な資料管理の連携が達成されたこと。			

2018年度自己点検・評価報告書 意見・指示および改善計画書

委員会/事務組織	情報センター事務室
----------	-----------

No.	点検・評価項目	内部質保証推進委員会が記入			委員会/事務組織が記入
		評価できる点	改善すべき点	意見・指示	改善計画
2	AXIA整備	全教室での利用を含め、利便性の向上。			
3	利用者サービス向上	ワンタイムパスワードによる学外からのアクセスの向上。			